



だっこするよ

令和2年3月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 東京都北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

生まれてきてくれて有り難う 命の尊さから新しい旅立ちへ

早春の日差しに誘われて、今日も元気にあちこちの公園へ春を見つけに出かけています。氷が張っていた赤羽台自然観察公園の池にも亀が日向ぼっこ、桜の蕾も膨らみ始めています。自然の中でその変化していく美しさや不思議さに触れて帰ってくるとそれぞれに満足げな笑顔、心を満たしてくれる自然環境に日々感謝です。

さて、連日の新型コロナウイルスのニュース、身近な地域にも教育現場にも急速な広がりを見せております。園では、毎日、手洗い・うがい・咳エチケット・換気・衛生消毒を行い対応しています。送迎の際には、手指消毒をお願いします。また今後の状況によっては症状によっては早めの休養や無理のない登園への判断も必要となるのか北区役所保育課と連携のもと状況を見守っていきたいと思います。

先日の懇談会には沢山の保護皆様にご参加いただき誠に有り難うございました。クラスの様子をお伝えしながら、この一年の様々な経験を通して、一人ひとり成長された喜びを共有させていただきました。また、2歳児組では「親子ふれあい会」を行い、緊張しながらも伸び伸びと表現する姿に皆様の笑顔が溢れる会となりました。

そして、懇談会で小さな黒いカードをお渡ししました。そのカードには0、1ミリの穴が空いており、その穴は「受精をした卵子の大きさです」と伝えました。その0、1ミリから人生の営みが始まり、人間で言うと東京から名古屋までの距離を歩いて、子宮のヒダに着床して、細胞分裂をしながら10ヶ月間ママのお腹の中で成長を続け出産を迎えます。病気や事故や災害にも遭わずに、今、目の前にいるのですよ。この話は、友人の助産師さんから聞いたお話です。生ある誰もが尊い命を受け継いで生きていること、それは、自分自身の力と周りの大きな力で導かれて繋がってきた奇跡であると何度も伝えていきたいと感じました。当然な命ではなく特別な命、子育てでイライラしそうなときこそ「生まれてきてくれて有り難う」に立ち戻りたいものです。

2020年度に実施される新しい小学校学習指導要領では、21世紀を「生き抜く力を育む」とされ、「主体的・対話的で深い学び」であると。答えが決まった問題を解くのではなく、知識を記憶するのではなく、持っている知識や情報をどう使いこなすのか、どのような社会を創造し、人生をどう自分らしく生きていくか主体的に考えて、周りの多様な人々と関わりより幸せな社会の創り手となるように育てることが重要であると書かれています。これは、保育園で行われているすべての活動遊びと生活そのものです。「主体的に」自分でやりたいこと、自分が主人公であること、「対話的」友達と一緒に話し合いをして、生の対話を「深い学び」自分の経験から新しい価値が生まれ「分かった」という瞬間、こども達の持っている経験が繋がったときなどです。これからもこどもの最善の利益のもとで「遊びと生活の中で生きる力を育むこと」五感を使った体験を通して、興味や関心を持ち続ける喜びを味わったり、「やってみよう」と思える体験に出会わせてあげることを小学校まで積み重ねていきます。今年度もお陰様で楽しい保育が出来ました。日々の保育へのご理解とご協力、こどもたちのことを一緒に考えて下さって本当に有り難うございました。

3月14日、第4回目の卒園式を迎えます。私たちの宝、社会の宝であるこどもたちを心より祝福したいと思います。

0、1ミリからの始まった私達の奇跡、一人ひとりが尊い人生の歩みを続けています。一番近くにおいて良きガイドになりましょう。主人公はこどもですね。大海へ漕ぎ出ます。前へ前へと漕ぐのはやはり自分自身の力で、大人とは違う方向を選んでも、その漕ぐ手を信じて、真実を探求したい意思を応援していきたいです。さあ、「未来はもっともっと面白いぞ」「大丈夫、大丈夫、好きな風を掴め」と笑顔で送り出したいです。(写真は2歳児親子ふれあい会での様子)